

# 賃金引下げによる原資を人件費として取り返すために

## シリーズ「組合の代償措置要求」(3)

——夜勤手当の増額、危険手当の創設(中央手術室、放射線業務勤務の看護師に対して)、

主任・師長・副師長に対する職務手当の創設、設備管理技士の昇格改善について——

### 夜間看護手当の増額

深夜勤務(午後10時から午前5時までの時間帯)を含む夜勤は、社会一般の生活パターンと異なる生活を余儀なくされるため、身体面、精神面に多くの負担、苦痛をもたらすものです。こうした点を考慮して25%割り増しの夜勤手当が支給されています。また、勤労の強度が顕著なものを対象として夜間看護手当が支給されています。

しかし、熊本大学の夜間看護手当の額は看護師の労に報いるものにはなっていません。夜間、医師が少ない中で、看護師が高度な医学的管理・専門的なケアを提供しなければならない責任は、かなりの重圧となっています。夜間、不穏を訴える患者さんも多いなか、3~4人の少ない人数で対応しています。8時間勤務の準夜・深夜に加え、16時間の二交替勤務を導入・試行している部署も増加しています。

下記の表の通り、私立大学病院、国立医療センターの手当は熊大の手当よりも高く、夜勤手当の割増率を高くしている大学もあります。東京大学(8,800円)、名古屋大学(8,800円)では新たに二交替制勤務に対する夜間看護手当を創設しており、国立大学法人の場合も、創意工夫をはじめているのです。

高度先進医療を支える熊大病院の夜間の厳しい労働に報いるために、手当の増額は必要不可欠です。

施設名		熊大病院	国立病院機構
夜間看護手当	準夜	2,900円	3,200円
	深夜	3,300円	3,700円
	二交替	6,800円	7,600円

施設名		慶応義塾大学病院	東京女子医科大学病院	順天堂医院	東京医科大学病院	日本医科大学付属病院	日本大学板橋病院	杏林大学病院	横浜市立大学附属病院	関西医科大学附属病院	久留米大学病院
		夜間看護手当	準夜	5,000円	3,800円	4,500円	4,500円	6,000円	3,300円	3,500円	3,500円
	深夜	5,000円	4,500円	4,500円	4,700円	6,000円	3,700円	3,900円	3,500円	7,040円	3,700円
	二交替		8,300円		9,200円						

その他	夜勤手当	5回を超え ると1回につき 1000円 加算	夜勤手当割 増50%	8回以上は プラス500 円	9回以上1回 につき400 円加算
	割増50%。 8回超、 1500円				

### 危険手当の創設(中央手術室、放射線業務勤務の看護師に対して)

中央手術部、中央放射線部の職場では、手術、検査、治療を受けるさまざまな症例の患者さんとかかわっています。

中央手術部では、手術件数の増加とともに繁忙さが増しています。大量の血液や鋭利なものなどに触れる回数も病棟と比べて多く、緊急患者については感染症の有無等の検査結果が判明する前に手術となることもあり、さらに危険度が増します。さまざまな症例の手術を担当し、術者や手術によって使用する物品が異なることも多くあり、針刺し、体液等に曝露するリスクも高くなります。また、患者さんの生死にかかわる緊張状態が長時間続きます。手術中は立ったまま同じ姿勢をとりつづける業務となります。これらは、著しく精神的緊張もともない多大なストレスとなるものです。

このようなことから看護師に対して危険手当を支給している大学は数多くあり、国立大学法人では、新潟大学で手術部看護手当を、長崎大学では手術部業務手当を今年4月から支給しています。

中央放射線部では、放射線技師には1日230円が支給されています。しかし、看護師には支給されていません。これらの手当を支給している他大学の例を表(裏面)に示します。

(裏につづく)

組合ニュース	NO. 6	熊本大学教職員組合医学部支部
	2010. 10.4	内線 5858 メール m-kumiai@union.kumamoto-u.ac.jp

<b>赤煉瓦</b>	熊本大学教職員組合	
	No.10 2010.10.4	内線:3529 FAX:346-1247 ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp http://union.kumamoto-u.ac.jp/

		東京医科大	岩手医大	関西医大	久留米大学	新潟大学	長崎大学
危険手当	中央 手術部	2,400 円	看護 4,500 円 (特別勤務手当)	11,000 円 手術室看護師 手当	12,000 円 (看護師、看護助手、 臨床工学技士、臨床 工学技士補助員)	13,000 円 (手術部看護手当)	看護師 13,000 円 臨床工学技士 11,000 円 (手術部業務手当)
	中央 放射線部	技師 5,800 円 看護師 1,900 円	看護師 4,500 円	看護 2,500 円 技師 2,500 円	看護師、技師 230 円/1 日		

### 主任・師長・副師長に対する職務手当の創設

各部署の主任(医療技術職員)・師長・副師長は、業務をスムーズに進め、高度で専門的な診療・看護を安全に提供するために、業務にあたっています。稼働率上昇による検査件数の増、リハビリ件数の増、在院日数の短縮が求められるなかで、スタッフ一人ひとりの教育・育成や目標管理など、多くの役割を担っています。会議等への出席も多く、多忙をきわめ、残業も多く、疲労により体調を崩す師長が続出した年もあります。

各部署では5年未満のスタッフが多くを占めるため、指導にも多大な時間とエネルギーが必要です。副師長は、以前はスタッフと夜勤回数に差がありましたが、現在はスタッフと同じように夜勤を行いながら指導にあたっています。師長は最終的に指導することになり、以前に比べて業務量は増大しています。重大なのは、多くの看護師が副師長への昇任希望をもっていない、という職場の声が届いていることです。病院長交渉の場において病院長も「指導的立場のスタッフが大変だということ」は認識している」と発言しています。

看護協会が認定する特定の分野において、熟練した技術や知識を有して水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う専門看護師、認定看護師の資格取得者が増えています。専門看護師、認定看護師は、院内の研修で水準の高い看護を実践指導し、看護職に対するコンサルテーションも行っています。また、看護師以外の医療技術職員も認定技師を取得しています。

私立大学では、職務手当を支給している大学もあります。また、富山大学、国立医療センターでは、専門看護師、認定看護師に手当を支給しています(それぞれ5,000円、3,000円)。熊本大学でもこうした手当を創設することは十分可能です。

手当を支給することで、現在の職務を評価されているという実感や、モチベーションのさらなる向上にもつながります。

### 設備管理技士の昇格改善

中央監視室では、患者さんの命を守るため、また、職員が快適に働ける環境を提供するため、電気、ボイラー、給排水、空調、医療ガスなど熊大病院のライフラインを支える重要な業務を担当しています。現在、6名の職員と外注業者が業務にあたっています。

従来、熊大病院設備管理部門は、ボイラーと電工の二つの部門に分かれてそれぞれの業務を行っていましたが、1991年、両職種の統合で組織が改編され、業務内容は複合的なビルを管理するという職務となり、職務内容が大きく質的に変化しました。熊本県下で最大の病床数をもつ病院のビルの電気、ボイラー、空調、給水、排水、消防設備、医療ガス設備などの運転管理をコンピューター制御によって行っています。一見、コンピューター制御になったために楽になったと思われがちですが、いち早く異常を発見し大きな事故につながらないようにするために目を配らなければならないところが多く、精神的負担も増えています。さらに、外注業者は毎年ごとの入札で選定されますが、業者が変わればシステム紹介から始まる6名の方の負担は一層増大します。

病院の設備管理の業務に加えて、再開発による建物の移動などで医学部、保健学科、薬学部の設備の保守点検、修理も行うことになり業務は拡大しています。

1991年8月には学長発令による熊大独自の職名「設備管理技士」が新設されました。しかし、このように職務内容が変化・増大したにもかかわらず、現在もかつてのボイラー、電工のままの規則に沿って昇格が行われており、処遇が全く変わっていません。現在の熊大病院の設備管理技士の職務内容は従来の規則が定めている一般職(二)の職務内容を大きく踏み出しています。現在の職務内容に見合った昇格基準の見直し、改善が必要です。